

第2回長野市総合計画審議会（H17.11.15）議事の内容

事務局から、将来定住人口、交流人口及び土地利用についてそれぞれ説明

将来定住人口についての質問、意見

- ・社会環境として考えた場合、増えることによって決して良いことばかりではなくて、それと引き換えに引き受けなければいけないことがある。人口構成比とか、労働生産人口で収入の期待がもてる人口がどのくらい増えるのか、将来の見通しを教えてください。
- 資料集の23ページの資料6として、長野市の人口推計についてお示しをしている。
- ・委員さんの発言は、目標として掲げる時にあまり大きいサイズで目標を立てずにやったらどうか、という意見ではないかと思う。
- ・現実的な路線をおさえながら作業を進めればいいのかと思う。
- ・今後、10年あるいはその先人口は減るんだということを明確にした上で、目標人口の政策的な部分のところについて、次の議事の2番の交流人口等々あるが、その辺をどうしていくのかをまず明確にしてから進めていったらどうかと思う。
- ・市の計画なので、できるだけ夢も必要なんじゃないかなと思う。
近隣の合併統合を頭に入れた中での目標人口というのも、ある面では長野市として必要ではないかと思う。
- ・企業等の進出、それから子育て支援事業の推進とあるが、具体的にはどんな内容をお考えなのか。
第三次総合計画基本構想の中の基本指標とした将来定住人口について、目標人口40万人とした中での流入人口増加の根拠は、方向性のところに書いてある内容によるもの。
市場調査を行い、具体的な数字の積上げが38万6千人に対して、1万4千人の積上げで40万人というものではない。期待値を含めて、企業進出等で人口増を望めるものであろうと、プラス1万4千人で40万人と設定した。
ご案内のように合計特殊出生率が昨年1.29で、年々下がってきている状況である。
子育ての環境づくりとして、就学前児童の入院・退院と医療費の無料化や保育園の時間外保育、一時保育、休日保育、ファミリーサポート事業等いろいろな制度を具

体的に実施している。また、小中学校の学校の整備や子どもさんたちの放課後授業を地区で育てるということも実施してきた。

- ・武蔵野市では計画の中に推計人口だけで盛り込んでいる。静岡市の場合も推計人口だけで盛り込んでいる。岐阜市の場合には、県都であるということと、中京圏の拠点都市だということから、目標人口を含めて両方で基本計画の中に盛り込んでいる。塩尻市の場合は施策的な人口誘導があるので、目標人口に近くだろうということで、事例が示されている。
本市の場合に、これからどのようにしていったらいいのかということで、皆さんのご意見を伺えればありがたい。
- ・目標人口を掲げるか、掲げないかというのは、大きな長野市の今後の意志を示すことではないかなと感じた。人口が減っていくという推計が出ている中で、もっと積極的な人口増を図るものを持たなければ決して増えてはいかないと思う。あまりかけ離れた数字を目標に挙げるとするのはどうかと思うが、なぜ長野市は40万人にしたいのかとか、そういった明確な意思があって、それに向かって、行政が人口増を積極的に図ろうということであれば、目標を掲げるべきであると思う。
- ・できれば、目標人口を置く時には、どういう点を挙げると目標人口を掲げられるか、キーワードみたいなことをもし添えていただければ大変ありがたい。
- ・日本全体では人口減少傾向にあるのに、長野市では人口増を望むのかという基本的なところで、将来どういう長野市にしたいのか議論する問題であると思う。これは都市像にも関係してくることであり、そのために、どのような政策誘導をして人口増を図っていくのかということになっていくのではないと思う。

コーホート要因法の統計手法により推計すると、平成28年では、36万7千人になってしまう。これはあくまでも現状のままでいくとこうなるというもの。したがって減少という前提はあるが、増加する前提はないということでもよろしくお願ひしたい。今回出している資料の考え方があくまでも減少の推計のままでいくのか、それとも、ある程度長野市の意味として減少をくい止める施策をもって目標人口を推計の位置よりももう少し減少を少なくさせての目標にするのか、という点になると思う。これはあくまでも私どもの意見であり、委員の皆さんの意見を聴いていきたいと思っている。また、合併とかいう話は別問題として、現時点の、新たな長野市の現状の中で目標人口をどうするか、ということでご意見を願ひしたい。

- ・総合計画を策定する前提として、今の将来人口の分については、推計人口という部分をきちんと把握した上でつくるべきだと思う。近隣の周りの部分を広域都市圏というような部分の視点があるとしたら、その中で人口の分野についてもするべきだと思う。ただ、今の長野の現状だけで考えると、都市インフラの維持というのは当然もたなくなるということだと思う。コンパクトシティというような部分、それから、環境景観というようなところの部分について、ギュッと締めたような形の計画を策定するべきだと私は思う。
- ・推計人口は当然きちんと推計すべきだと思うし、そうかといって目標人口も無視することはできないと思う。長野市のあるべき姿というのは、北信地区の一応首都圏という形で位置付けられているということで、いろいろな人口の流入が出てくると思う。また、都市のインフラ問題や環境問題についても、よその市町村が耐えきれなくなり、どうしても長野市が中心になり面倒をみていかなくてはならなくなる。その時に、長野市が面倒をみれる目標人口ということも頭に入れた政策をしていかなければ、後で計画が小さ過ぎてどうにもならなくなってしまうのではないかなと思う。
- ・目標人口を掲げるという中で、総合計画の中で何かデメリットみたいなものが出てくるのであれば、「ちょっと」とは思うが、どのレベルで目標人口とそれを裏付ける施策要因を記述するかということになってくるので、その辺のバランスをとっていけば、できれば目標人口を入れた方がよいのではないかなと思う。
- ・デメリットというのは、結果的にそれは絵に書いた餅にならないようにしないといけないことであり、ただ単に目標値だけで終わってしまいそうなものだと、必ずしも良いとは言えない計画になってしまう。
- ・推計人口が減少していくのは当然なことであるが、それをしっかり踏まえた上で、目標のある長野市、これを多少無理でも求めるべきではないかなと思う。大きなギャップが出てきたら困るが、ある程度期待のもてるというか夢のある長野市を構成していかなければ、だんだんジリ貧になってくるような感じがする。
- ・目標人口というものはしっかり掲げていかなければいけないと思っている。推計人口による現状認識を踏まえた上で、いろいろな施策を行い目標人口が出てくるのかなと思っている。
人口を本当に増やしていくのか、いかないのか、という点について、長野市の方が

ら方向性が出るのか、それともこの会議の中で議論していくのか、その辺がはっきりしないと、なかなか推計人口、目標人口という話もまとまっていけないのではないかと感じた。

- ・総合計画というものは、「これからこうしたい」というものなので、基本である人口をどうしたいのかという目標は掲げるべきだと思う。ただ、何のためにどうしたいか、という将来像をいちばんに語った上で、人口目標をどうしたいか語るべきであり、逆にそれをうまく語れていないのに、その先のところのポイントを語れと言われても、今の段階ではなかなか意見が出せない現状である。
- ・目標を掲げるかどうかということに関して、掲げるべきだというのが皆さん多数の意見だと思うが、具体的にそれをどうやったらそうなるのか、という肝心なところをまずやらないと、最初に数値を決めて辻褄を合わせるようなことをやってみても結果として何も実現できない恐れがある。推計よりも上に持っていくこと自体、私は大賛成であるが、その裏付けをまず具体的にやってもらって、そのデータなり、議論なりを踏まえて、ここで「これくらいにしよう」ということが必要ではないかなと思う。
- ・基本構想においては推計人口と目標人口を掲げるべきだと思う。
国で出生率を上げる対策を立てていただければ、子どもは十月十日で産まれるものになっているので、必ず人口は増えるものと思っている。
旧豊野町の場合、宅地造成により人口が8,500人から1万人ちょっとに増加した。
合併した豊野、戸隠、鬼無里、大岡と安い地所があるので、そちらの方に入れていただければと思っている。
- ・基本的には目標人口を設けたいという希望がたくさんあるというように伺ったが、これの裏付けをどうしていくのか、ということも非常に重要である。今後、議論を深めていきたい。

交流人口についての質問、意見

- ・資料に「定義は様々あるが」と書いてあるが、どの範囲まで交流人口というものが意味付けられているのか。

交流人口についての定義付けというのは、各都市の特性でいろいろな捉え方があり、確たる定義はない。長野市においては、観光・コンベンションで長野市を訪れる人を交流人口として捉えるという考えである。

- ・長野市の企業に勤める周辺市町村からの流入人口等の数字把握はしているのか。商業目的、ビジネスで長野市を訪れた方という人口についての把握はしていない。
- ・今度の総合計画の中で、交流人口というのがひとつの方向性を示す意味で大事なポイントではないかと思っている。都市の魅力とか可能性のバロメーターとしての交流人口というような考え方ができるのではないかと思う。観光・コンベンションという今までの二つの表現は長野市にとってはひとつの大きな面ではあると思うが、今までの農村交流ではない滞在型の観光と、街の中も含めた世界中からのアーティストレジデンスの受け入れみたいな形の滞在型というようなことをどこかに入れたらどうかと考えている。
交流人口がもしかすると定住人口への移動も考えられるような交流人口という考え方もあるのではないかなと考えている。

- ・交流人口の観光地への善光寺何万人とか、飯綱高原何万人とか、コンベンションの関係ではだいたい分かるのですが、この統計の調査がどんな数字で出るのか、教えていただきたい。

1,200 万人という数値については、観光サイドでいう観光地の利用客数ということである。調査地点は善光寺、飯綱高原、松代、川中島古戦場、恐竜公園、エムウェーブであるが、現在、合併町村を含めた観光交流人口試算値が 990 万人ちょっとであり、あと 5 年間で平均で各年 40 万人位、5 年間で 2 割増にしようと 1,200 万人観光交流推進プランというものを策定しているところである。これについては、5 年間で毎年それぞれの地域をブランド化する。

従来の文化あるいは歴史を中心とした観光もあるが、体験型、体感型の観光ということも重視をするということで、来年度、体感・体験型も含めた「歩く」をテーマに観光交流を実施する予定である。これにより、農村との交流、最終的には 2 居住地域施策や定住人口にもつながると考えている。また、修学旅行による農業体験を含め、全産業をとおした観光ということで、産業振興の中では 1,200 万人を位置付けている。それ以外でも、産業による交流ということで、研修、学会、大会、発表会、

さらには芸術という部分で、文化、芸術、スポーツの交流、これらもすべて交流になるわけであり、その中ではエムウェーブだけがカウントの中に入っており、それ以外は、1,200万人の中にはカウントされていないので、かなりの交流人口がここにプラスをされると思う。

- ・ 1町3村を含めた観光地では約1,000万人の観光客が来ているが、このうち、どのくらいの外国人が観光に来ているのか。また、善光寺、戸隠、松代を含めての世界遺産登録についての長野市の考え方を伺いたい。

外国人の入り込みがどのくらいあるのかは明確には把握はしていない。今後、全国的な統計数値をどう弾いていくのか、その中で正確に弾いていきたいと考えている。また、世界遺産登録については、遺産登録の範囲をどの程度にするか、なかなか難しい問題がある。核となる部分についてはよいが、その周辺の緩衝地帯については、法的規制等がかかる部分がある。当面はたぶん善光寺の周辺のどの程度まで含めるかが議論の中心となり、松代、戸隠も含めて一つの世界遺産にするというのは、なかなか難しいのではないかと思う。

- ・ 地域ブランド化の他に二居住政策についても考えていくべきだと思う。ヨーロッパのある地域では週末は別荘へ行って農業をすることが定着している地域もある。農業者従事者の高齢化や土地形成が崩れてきている状態の中で、農業を含めて長野に来ていただき、産業を守っていくことも考慮した交流人口というものをダイナミックに考えて、それを長野モデルにしたらどうか。

- ・ 地域連携を踏まえた上で、東南アジアの外国からの誘客という部分を今回の総合計画の中には明確に入れていくべきであり、長野も十分に東南アジアの人たちが来て、滞在をしていける観光地になり得る。また、観光地で生きていくという明確な都市経営をするべきだと思う。

広域連携ということでは、妙高市を含めた北信地域 16市町村並びにJR、長野電鉄、川中島バス、16市町村の観光協会等の団体を含めて、プロジェクトを立ち上げている。

もう一つは、集客プロモーションパートナーシップ都市提携ということで、長野市と地縁関係にある都市と提携をして、お互いの宣伝等を行っている。

都市間の交流を深めながら交流人口を深めることも現在、施策として実施しており、従来に増して観光交流が進んでいくのではないかと考えている。

- ・ 滞在型観光をより具体化していく必要があると思う。我々はどうも善光寺さんに依存しすぎていたということがあると思う。長野というと、自然であり、農業であり、

りんごであり、というようなイメージがある。これをもっと生かして、グリーンツーリズムの視点をもっと採り入れて、旧四賀村のクラインガルテンのようなものを積極的に作り出し、新たな観光の地域ブランドをつくる姿勢が必要ではないか。

- ・基本的には「第三次の計画に引き続き」という言葉があるが、同じ観光・コンベンションと言っても新たな視点が生じているので、これに目を付けずに引き続きの議論となると問題があると思う。ぜひ、新たな視点に立った交流人口の獲得ということで今後議論を進めていきたい。

土地利用についての質問、意見

- ・農家の人たちの話を伺うと、市街化になれるところはぜひ手放したいと。「ただ、ぺんぺん草が生えていて、これが優良農地だとおっしゃられても困る」と、農家の人たちの切実な言い方をされていることを考えると、土地利用も「保全型だから保全するんだ」ということではなくて、やはり、適材適所のものは適材適所に使っていただくことをお願いしたい。
- ・先の交流人口の問題でのグリーンツーリズムを見据えると、普段接していない中山間地域の遊休農地にも光を当てて考えていただいたほうが、長い目で見れば原資を膨らませることにもなると思う。
- ・遊休農地の農家の人たちの農政問題という部分は、農家の方々の問題というのもあるわけで、そういう話で土地利用を図るのではないと思う。
景観法が制定され、国あるいは都市のあり方というような部分をこれからの農地を含めて、景観という視点から土地利用を図っていくことが必要だと思う。農地の未利用農地の緑地保全という視点もぜひ採り入れて解決を図っていく必要がある。
景観法が今年の6月から施行されており、景観法に基づく景観審議会を設置しており、お話いただいた内容についても議題の中に入れて論議している。
お話の景観法から見た時に緑地保全をしていったらどうか、という点については、緑地保全を仮に制定する場合、平坦地の市街化の部分や、中山間地の部分の中でどう保全していくのかは、やはり農業従事者と共にしていかなざるを得ないものがある。例えば、都市計画上、景観法上に位置付けることは、当然その方々の理解も必要になるし、それを位置付けた中でどう保全していくのか、これは結局、農地を守っていくことが一番の主体になると思われる。局所的な5haだとか10haの範囲であれば可能性があるかもしれないが、広範囲なものになると非常に難しいものがある。いろいろとご意見を伺いたい。